



▲広さやお好みの雰囲気に合わせて、誰もが心地よく使える空間づくりを。便器の取り替えから内装まで1日で行なうプランもあります。

▼人を感知して自動で優しく点灯する便器。深夜のトイレで眩しさに悩むこともありません。



RESTROOM



坂本 一郎
積水ハウス
GMパートナーズ株式会社

「お客様の暮らしや価値観に寄り添ったご提案」を信条に、数多くのマンションのリノベーションやリフォームに携わっています。

水回りの新調と言えばキッチンがまず頭に浮かびますが、坂本さんが最も重視されているのは、意外にもトイレだそうですね。
坂本 リノベやリフォームの記事でメインとして取り上げられることは少ないのですが、お客様からの設備更新のご要望がいちばん多い



誰もが毎日使う水回りは 優先順位を見極めて 納得のリノベーションを。

+
イマドキ
リノベの
処方箋
16

お住まいの中で、ここはそろそろ新しくしたいな…という時に

真っ先に候補に上がるのは、水回りではないでしょうか。

経年による老朽化、家族のライフステージの変化など

きっかけはさまざまと思いますが、

毎日使う場所が快適になれば、暮らしの快適さもアップ。

そこで今回は、サニタリー&キッチンのリノベについて

多くの事例を手掛ける積水ハウスGMパートナーズの

坂本さんにお話を伺いました。



のはトイレなんです。また、水回り全般のご相談をいただく際も、私が最初におすすめるのは、トイレの更新です。他の設備と比べて圧倒的に使う頻度が高い、というのがその理由です。一日中ご自宅にいると少なくとも5〜6回、ご高齢になると回数さらには多くなると思いますが、よく使う場所を快適にすると、その後の暮らしの満足度がぐんとアップするのです。
また、ご家族だけでなく、お客様が来られた時にも使われることを考えると、トイレはセミパブリックスペースと言えます。皆さんもご経験があると思いますが、素敵なレストランやシヨップでトイレが今いちだと、ちょっと残念な気持ちになりませんか(笑)。スペース次第ですが、カウンターを設けて、センスの良い小物や鏡をディスプレイすれば、「トイレ」が「レストルーム」にバージョンアップします。誰もが心地よく使うことができる魅力的な空間づくりをすることで、住まい全体の印象も高まります。

よく使う場所ほど更新後の満足度が高いというのは、とても説得力があります。便器の選び方などについては、いかがでしょうか。
坂本 タンクレスにすると、生活感のないスタイリッシュな空間に見えるのでおすすめです。ただ、構造上タンクがなくなると分だけ広くなるわけではないので、その点はご留意ください。また、超節水型の便器なら、水の量だけでなく水を処理するために使う電気の量も少なくて済むので、費用削減と環境負荷軽減の両面でメリットがあります。
なお、床の仕上げに使われているクッションフロアや塩ビタイルは、経年による変色や跡が残っていることが多いので、便器と同時に取り替えることをおすすめします。さまざまな素材やデザインがあるので、インテリア性アップにもつながります。それから、私がよくご提案しているのが照明計画です。すみずみまで明るく照らすと、清掃グッズなど見えなくてもいいものまで見えてしまいますよね。必要な部分だけを照らす「光のポイント」をつくるよう設計すれば、陰影のある魅力的な空間演出になりますし、夜中にトイレに行った際に、明るさで目が覚めてしまうこともありません。

キッチン回りに関しては、お客様にどのようなアドバイスや提案をされているのでしょうか。

坂本 お問い合わせが多いのは、水栓、コンロ、換気扇、この3つの不具合です。こうした設備については規格が統一されているので、部分的により機能の優れたものに交換することをおすすめしています。



◀ 収納と一体化した家具のような洗面化粧台は、約30年前のもの。造作洗面台にはタモ材を使用し、ナチュラルな空間に仕上げました。洗面ボウルには、端正な表情の理科実験用シンクを採用しています。



POWDER ROOM

▼(上)アイランドスタイルなら数人で調理することも可能。ダイニング側からよく見える背面の演出にも心配りを。

▼(下)開放的なオープンスタイルのキッチン。手元を隠すために、立ち上がりを設けるのもアイデアのひとつ。



調理に集中する場所、というイメージのセミクロズスタイルから、開放感のあるオープンスタイルへ。家族やゲストとコミュニケーションを楽しめる点が魅力です。



after

▶(左)水回りらしい清潔感のある素材や色彩。朝の支度が混み合いがちなら、ダブルボウルという選択肢もあります。

▶(右)家族一人ひとりに専用の引き出し収納があれば、「自分のものは自分で管理する」という暮らしの習慣が育まれます。



KITCHEN



BATHROOM



▼リラックススタイルの演出には、穏やかな陰影をつくる間接照明を。

が、素材やサイズや色など細かい部分まで自由に設計できるので、人気が高まっています。最近ではインスタグラムなどでもよく紹介されているので、「わが家もこんなふうにしたい」と思っている方も多いかもありませんね。

築30年の積水ハウスのマンションをリノベーションした際は、当時としてはホテルライクに作られた収納一体型の洗面化粧台を、造作洗面台に作り替えました。収納スペースは、お気に入りのカゴやBOXを入れていただけよう、あえて扉のないオープン棚にしました。最初からあまり作り込まずシンプルな設計にすることで、住まいながら仕上げていく楽しみができますし、コストを抑えることもできます。オリジナルで作りたいという方は、ぜひ参

スタイルはもちろん、素材や色などデザインに迷った時は何を基準にすれば良いでしょうか。

坂本 ひと昔前のキッチンは裏方のイメージもありましたが、「食」がコミュニケーションの中心となった今では、キッチンはリビングやダイニングと並んで存在感の高い、大切な空間と言えます。ですから、もし迷われた時は、「そこにいる時間が楽しくなるようないつまでも好きでいられるようなデザインや質感かどうか」という視点で考えていただければと思います。

一方で、もし、同時に複数の不具合が生じるようであれば、家電と同じく寿命が近づいているサインですので、今後のご家族の状況を見据えて、キッチン全体を見直すきっかけにされるのも良いと思います。たとえば、お子様が独立してご夫婦だけになると、ライフスタイルが大きく変わりますよね。それほど多くの食器は使わないので収納スペースを少し減らしたり、お二人と一緒に食事づくりをすることが増えそうなら、作業スペースにゆとりを持たせたり。また、年齢を重ねると安全・安心への配慮も必要です。収納量、広さ、機能性、安全性など、何を優先してどのようなスタイルにすればわが家らしい心地よいキッチンになるのか、ご家族で話し合ってみてください。

浴室では、どんなことに着目すれば良いでしょうか。

坂本 浴室で最も多いお問い合わせが、シャワーの不具合です。これもキッチンの水栓などと同様、交換することができまので、最新のデザインや機能を持つ製品などを検討いただければと思います。浴槽に関しては、跨ぎやすい高さのものや、内側にステップが付いているものなど、誰もが安全・安心に使えるユニバーサルデザインであることが大切です。浴室は、体を洗うだけでなく、1日の疲れを癒すという役割もあるので、間接照明にするなど、心身ともにリラックスできる空間演出にもこだわってみてはいかがでしょうか。

洗面化粧台はバリエーション豊富な既製品も魅力ですが、オリジナルで作ることもできるそうですね。

坂本 「造作洗面台」というのです組合せは自由なので、もし、ゆとり座ってメイクなどをしたいという場合は、椅子を置くように下キャビネットをなくすことができます。また、二人同時に身支度をされるご家庭では、洗面ボウルを2つ設けるケースも増えています。

私はよく「キッチンには設備のついた家具です」と説明するのですが、これは、お客様の感性で選んでいただくことが重要だと思っているからなんです。ご提案にあたって、お好きなインテリアのテイストやお気に入りのブランドなど、最初にお客様の趣向をお伺いするのもそのためです。

洗面室の使い勝手や雰囲気を変えたいという方も多いですよね。

坂本 洗面室は、比較的手軽にリノベーションできる場所のひとつです。メインの設備である洗面化粧台は、キャビネット・洗面カウンター・ウォールミラーの3つで構成されているものが現在の主流となっています。キャビネットの扉を引き出しにするか、観音開きにするかで使やすさだけでなく価格も変わりますし、同じタイプでも面材のグレードによって変わります。

